

環境コミュニケーション大賞（環境報告書部門） 地球温暖化対策大賞 採点表（平成26年版）

温室効果ガスの削減、その他気候変動対策について、斬新かつ具体的な数値目標を示して取組を進める企業であって、その取組を社会に広く伝える工夫を行っている最も優れた報告書を、特に下記の視点等で選考する。

- 2050年に向けた長期ビジョン・目標がある。 MAX 20
「3」 理念や社長の緒言だけでなく明確に目標とされ、それに向けての道筋戦略の記述もある、等。
「2」 長期ビジョンと緒言でのコミットメントがある、等
「1」 ビジョンらしきものが読み取れる、等
「0」 記載なし
- 2025年から前後5年ほどの間の一定の年度を指定し、中期ビジョン・達成目標を掲げている。 MAX 20
「3」 理念や社長の緒言だけでなく明確に目標とされそれに向けての道筋戦略の記述もある、等。
「2」 ビジョンと緒言でのコミットメントがある、等
「1」 ビジョンらしきものが読み取れる、等
「0」 記載なし
- 少なくとも3年以上の期間を設定して大幅なGHGs削減目標を掲げている。 MAX 15
「3」 大胆な目標が明確に掲げられ、それに向けての具体的な道筋と戦略の記述もある、等。
「2」 緒言でのコミットメントと目標とがあり、どう達成するか戦略も記載されている、等
「1」 目標はあるが達成の道筋が必ずしも明確には示されていない、等
「0」 記載なし
- 既存テクノロジーと新しいテクノロジーを組み合わせ新製品・サービスの開発と、新しいビジネス、生活モデルを提唱し、実績を上げつつある（緩和策のみならず適応策も含めて）。 MAX 15
「3」 製品・サービス開発方針と目標・実績が明確に記述されている、等
「2」 方向性と目標はしめしているが極めて部分的である、等
「1」 方向性を打ち出しているのみ、等
「0」 記載なし
- 低炭素社会に向けた提言をしている（緩和策のみならず適応策も含めて）。 MAX 10
「3」 提言と自社の進むべき方向性と果たすべき責任を明確に記述している、等
「2」 提言はしているが業界の立場で述べている、等
「1」 低炭素社会の記述はあるが一般論を述べている、等
「0」 記載なし
- 連結ベースで過去、大幅なGHGs削減を実現している。 MAX 10
「3」 基準年を設定し、連結ベースを超えて、Scope3などのバリューチェーン全体の取組が明確に説明されている、等
「2」 連結ベースで、概ね国内外を網羅して上記に準じている、等
「1」 主要な事業所等で上記記述、等
「0」 記載なし
- 総合評価 MAX 10
緩和策のみならず適応策も含めて対策を考えていることは総合評価の必須要素の一つ。

以上